

長岡の みなさまへ――



©上野 隆文

マーラーは今や非常に人気のある作曲家で、彼の交響曲はベートーヴェンの交響曲と同じくらい頻繁に演奏されると言って過言ではありません。しかし、その中でも第7番はおそらく一般の人々にはあまり知られておらず、好まれていないかもしれません。私はその理由がよくわかりません。というのも、私自身はこの交響曲に初めて出会った瞬間から、その独自性と独創性に惚れ込んでしまったからです。この第7番には、マーラーの特徴がすべて詰まっていると思います。素晴らしいオーケストレーション、ドラマティックな物語性、グロテスクな効果、ロマンチズム、叙情的なメロデー、そして大衆を魅了する興奮。構造が少し型破りで、最初は全体を理解するのが難しいかもしれませんが、最終的にはその音楽の美しさは皆の心にも届くと確信しています。この名作を、愛する東京フィルハーモニー交響楽団と長岡の観客の皆様と分かち合えること、大変嬉しく思います！

バッティストーニさんに ♪♪ いろいろ 質問してみました！



©寺澤 有雅

Q. 指揮者をめざしたきっかけは？

私が指揮の魅力に目覚めたのは、音楽院のオーケストラでチェロを弾き始めた10代の頃でした。指揮という仕事はとても魅力的に映りました。楽器の練習は必要なく、スコアと音楽に集中し、これらの名作の本質を理解し、それを音楽家や聴衆に伝えるのですから。オーケストラの音、色彩、表現の可能性に魅了されました。

Q. 音楽以外に好きなことは？

スコアの勉強や作曲以外では、読書をよくします。旅行の際も読みたい本を詰めたスーケースをいつも持ち歩いています。(デジタル書籍は使いません!)。少なくとも数冊の小説、インスピレーションを与えてくれるアーティストの伝記、音楽や哲学、人類学に関するエッセイをいつも持ち歩いています。

Q. 日本の好きなところ

日本とイタリアは、美しいものや美味しい食べ物、芸術や詩、自然、史跡を愛する点で共通しています。だからこそ、私はこの国にいて本当に自分の国にいるように感じますし、文化の違いよりも共通点の方がたくさん見つかるのです。

Q. 尊敬している人物は？

私の書斎には、最大の影響を与えたシェイクスピアとベートーヴェンの胸像が置いてあります。



©上野 隆文

Profile アンドレア・バッティストーニ (東京フィルハーモニー交響楽団 首席指揮者)

1987年ヴェローナ生まれ。国際的に頭角を現している同世代の最も重要な指揮者の一人と評されている。2014年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場の首席客演指揮者、2016年10月東京フィル首席指揮者に就任。数多くのオペラや管弦楽プログラムで東京フィルを指揮。